

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ぶるーべりー緑台		2026年 2月 19日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	部屋の使用目的を定めている	集まりやすい部屋があり臨機応変な対応が必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		各部屋に配置出来るようにしている	防犯・防災や目を増やすために、カメラを設置している
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		各部屋は写真や文字などを使い分かりやすくしている	部屋に密集した際の対応を考えていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃・衛生に関しては日々意識している	衛生保持は習慣化しているので、下がることなく継続していく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		部屋の使用用途を決めている	職員で決めるのではなく利用児と適宜使用用途を相談する
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		毎月法人全体のミーティングを行っている	回数を重ねていき法人全体の向上を図っていく
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		面談時とはまた違う意見もあり貴重な意見と捉えている	重複するものなど優先順位を付けひとつずつ改善を図る
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		全体・事業所での話し合いを設けている	上記同様、優先順位をつけひとつずつ改善していく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	第三者による外部評価を行っていない	検討していく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		事業所でのミーティング時や法人単位で行っている	外部での研修も行っていき、提供の機会を増やしていく
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	職員間での話し合いや他事業所を参考に作成・公表している	手探り感はあるので事業所の方向性を定めていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		ニーズや課題を確認し、他機関との連携なども行い検討し、作成している	児童の意向も増やしていき家族にとって適切なものを考えていく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	モニタリング・アセスメントなどを基に話し合いの場を設け検討していく	まだ保護者の意向が大きいため、子供の意向も増やしていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画内容にあった支援をスタッフで共有し支援している	職員との意見交換を増やしていき、支援内容の向上を図る
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		参考様式や独自の物を活用している	法人事業所で意見交換し、施設に合った物に改良を重ねていく
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		項目に沿った形で行っているまでである	5領域に沿った支援を他事業所と意見交換等行い向上を図っていく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別・集団とスタッフ全員で立案し、他事業所の活動も参考にしている	利用児が楽しめる新しい試みを増やしていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		曜日に特色を出さないよう行う事の種類のバランスを考えている	利用児が楽しめる新しい試みを増やしていく

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	各々に合わせた形を考え個別・集団活動を検討している	集団の比率が高くなってきたのでバランスを意識していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		前日・当日にミーティングを行い確認している	支援・役割など対応力も上げていく必要があるため、更なる向上・効率を上げていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		SNSを活用し、情報の掲示を行い共有できるようにしている	タブレット端末で使用できるシステムも構築出来てきており、気付きや意見も共有出来てきている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		SNSを活用し、情報の掲示を行い共有できるようにしている	タブレット端末で使用できるシステムも構築出来てきており、気付きや意見も共有出来てきている
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		期間を設け実施、見直しを行っている	見直しに関しては個々状況に応じてモニタリング期間よりも短い期間で見直し向上を図っている
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	徐々に組み合わせも出来てきているが、手探り状態である	まだ組み合わせ方に偏りがあり似たり寄ったりである
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択の機会は意識して設けている	選びやすいものを含み、選択しやすい形を作る
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者・児童担当者が参画している	参画できる職員は参画している
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	整えているが受動的になっている	利用児や関係機関に偏りがあるので広がりを作っていく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	2	利用児によるが、他機関との連携や情報共有の機会が増えている	保護者を含めて裾野を広げる必要があると思うので機会を増やしていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	利用児によるが、他機関との連携や情報共有の機会が増えている	新一年生に限られており機会を得るには工夫が必要
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		7	該当児がまだいない	経験のある他事業所から情報を得、知識は得ている
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		7	非常に乏しい	必要な助言等検討し、機会を設けていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7	職員や地域の子供との交流のみである	明確な交流はなく、近くの公園で一緒に遊ぶぐらいである
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7	参加していない	検討のみで留まっている
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時などに保護者と情報交換を行い相互理解を図っている	送迎時などで伝えきれない際はSNSを活用し、漏れなく伝えられるようにしている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	バリエーションは乏しく外部等参考にスキル向上を図る	他事業所等参考に行えることを増やしていく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		聞いて分かりやすい心がけている	知らないことを教える・伝える意識で臨む
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		面談・送迎時など直接会う形で意向を確認している	面談を随時行うが時間の制限もあるのでSNSなども活用している
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		聞いて分かりやすい心がけている	スムーズな同意が得られるよう聞き返されるような単語を多用しないように分かりやすい心がけている
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		随時面談・電話対応を行っている	常に対応できるようにSNSも活用している

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7	保護者をメインに置いた会合は行っていない	事業所でのイベントへの参加のみであり、保護者をメインに添えた会合は行っていない
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情体制を作っており、発生時は苦情解決責任者が対応に当たる	機会は取りにくいですが、シミュレーションしたりと向上を考える
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		活動・イベント情報を書面、SNSなどで伝えている	広報などはないが現状周知は出来ていると思う 発信の形は検討していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		情報の取り扱いには厳重に注意し管理している	維持は勿論のこと、定期的に意識が持てるよう研修などで職員の意識をより強めていく 話の中で固有名詞を出さないよう特に注意する
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		SNSなどを活用している	伝達不足は無いと思われるが、今後も適宜に扱えるものを考えていく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	行ったことはない	第三者を交えることに抵抗や同意が得難い
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		それぞれのマニュアルを作成しており、職員・保護者に周知している	訓練はパターン化しないように仮想状況は吟味する
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		定期的に避難訓練等を行っている	他事業所と意見交換を行い対応力の向上を図る
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		見学・契約時に確認を行っている	フェイスシート等に記載欄があり極力情報漏れがないようにしている
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		保護者に確認を取り対応している	食品を扱う場所（台所等）に掲示しておき情報抜けのないようにしている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		計画に沿っているだけの現状	他事業所と意見交換を行い対応力の向上を図る
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		周知は出来てきているが、理解出来ているとは言い難い	他事業所と意見交換を行い理解に繋げる形を得る
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		報告書を作成しており掲示・回覧し職員に周知し共有・再発防止を心掛けている	話し合いの場を設け再発防止に努めていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		職員研修を行い、理解を図っている	防止策や該当事由を増やしていき、対応力や虐待への理解を上げていく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		必要な状況等説明し、保護者の同意を得ている	該当事由を考えていき、対応力や身体拘束への理解を上げていく	